

ジェイハンス ②

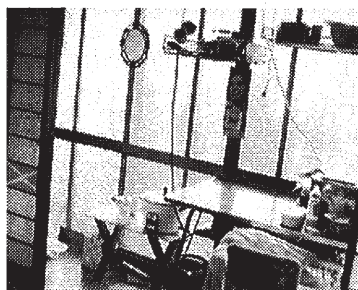


山口雅也社長

日本中の人々が関西に注目していた。1970年に開催された大阪万博は入場者6422万人という驚異的な盛り上がりを見せ、多くの人が京都を訪れた。空前の関西観光ブームの到来だ。「万博の時は景気もよかったですね。ですが、その後石油ショックは大変で

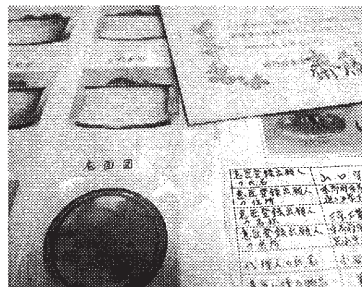
「アイデアマンで、家でもなにか考えてつっついていました。メモ帳に鉛筆差しが付いたものとか、ちよっとしたものを「んですけどね」と山口雅也現社長は笑う。しかし

ノベルティグッズとしていけると直感



創業当時の工場のような様子、当然おみやげもあまり売れなくなり「なりました」と創業者の山口宗晃氏の妻・山口弘子さん（現会長）は話す。観光みやげだけでなく、日常でも使える手づくりの箱や木工製品など、京都らしい和小物を開発するが、すぐに真似されて類似商品が店先に並んだ。当時の日本はまだ著作権意識の低い国だった。

バブル後の苦境を救った「あぶらとり紙」



特許庁に申請した意匠登録

誰でも思いつくような商品なら、すでに販売されているはずだし、売れはしないだろう。宗晃氏には潜在的に人が求めるものをつくり出す才能と直感力があつたに違いない。そして商品に対しての誇りがあつた。真似をされても泣き寝入りせず、特許庁に意匠登録を申請し、生み出した商品が権利を守った。その後、妻の宗晃氏のアイデアは尽きることなく、「ひな祭り菓子容器」や「和風フリーティングカード」など、ヒット商品が生まれ、手づくりで味のある和小物は京都を飛び出し、東京へ、全国へと認知度を上げていった。ある時、宗晃氏が妙な咳をしているのを友人の医師が気づいた。病院での検査結果は肺ガン。宗晃氏は病気を受け入れ、闘病生活が始まった。

会社プロフィール…1963年に京都府綾部市で創業。現本社所在地は京都市下京区。社員数6人。創業時は京都みやげ中心の商品ラインナップだったが、跡を継いだ三代目・雅也氏の代になり、和のデザインを生かしたノベルティグッズ企画やネットショップ運営に力を入れる。楽天市場、ヤフーに〈京都 洛〉を出店中。「ちりめん」などの布を使った「貼り物」と呼ばれる工芸品の仕上がりの丁寧さや完成度は業界で有名。



どでコストは上がる。そのころ、ある商品に出会いました。これを使ったノベルティグッズはいけるんじゃないかという直感が働きました。苦境を救ったのは「あぶらとり紙」だった。（次号へつづく）